

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための
自己点検・評価報告書

令和6年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(幼保連携型認定こども園に関する意見聴取)

第二十七条 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

(教育委員会の意見聴取)

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、管理市である御前崎市が策定した第2次御前崎市総合計画の教育文化分野の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づき、御前崎市教育大綱及び御前崎市教育振興基本計画の基本方針である「園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等がスクラムを組み、協働することによって、1 思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つ 2 生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つ」ための教育行政を展開しています。そして、その年度の主要施策及び取組について、管理市の教育を説明する『スクラム御前崎』の中で示しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）第26条では、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすために、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて、教育委員会では令和5年度『スクラム御前崎』で示した主要施策及び取組の自己点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、構成市内の学識経験者4名から意見をいただき、第三者的立場から常葉大学教育学部 堀井啓幸教授に外部評価をお願いし、検証したものを報告書として取りまとめました。

今回の点検及び評価を令和6年度の施策に活かし、基本目標の達成のためにそれぞれの取組を推進してまいります。

令和6年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会
教 育 長 吉 村 紳 治 郎

Ⅱ 点検・評価について

1. 趣 旨

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会は、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

※本自己点検・評価報告書は、御前崎市の自己点検・評価報告書から御前崎市牧之原市学校組合に関係する箇所を抜粋して作成しています。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和5年度「スクラム御前崎」に沿って、本年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎P.1の「重点取組」として掲げた16の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和5年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 増田 美恵子 氏、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行 氏の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として0～100%で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の5段階で表しました。「妥当性」とは、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

実施できなかった事業については、「－」で表しています。

Ⅲ 重点取組

今回教育委員会の自己点検・評価についての報告書をまとめるにあたり、令和5年度重点取組として掲げた目標に対する評価をまとめました。本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い 〃 4・・・高い 〃 3・・・どちらともいえない 〃 2・・・低い 〃 1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

1. 生活習慣（学習習慣）の定着

市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の課題として「早寝早起き朝ごはん」などの基本的な生活習慣やそのための「自己管理能力の育成」について現状と課題を共有した。市青少年健全育成会議でも掲げる目標を同じくし、「早寝早起き朝ごはん」「ゲーム障害、ネット依存」について、各地域や家庭へ意識啓発を行った。本年度のスクラム御前崎の集いでは、子どもたちを交えてワークショップを初開催し、子どもたちの考えを感じる試みを行った。結果、「早起き」「朝ごはん」ができる児童生徒の割合は、全国平均より高い状況である。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
スクラム・スクール運営協議会	100	5	5	5	5	継続
「スクラム御前崎の集い」の開催	100	5	5	5	4	継続
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催	90	5	5	4	4	継続
家庭教育支援の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	97.5	5	5	4.8	4.5	

2. 市の特色を活かした教育や体験による愛郷心の育成

「御前崎クエスト」では、プログラムを1つ新設した。キッズからユースまで、クエスト内での学びのサイクルができています。プログラムでは、自然体験、地域資源を生かした活動を通じ、地域愛の醸成ができた。各小中学校では、理科や社会科の授業等を行う際に、各発電のしくみや社会とエネルギーの関係などについて、中部電力職員をゲストティーチャーに迎え、出前講座を実施した。

「マリンスポーツフェスタ」は、数年ぶりに制限が無い中で牧之原市と共催で事業を実施し、過去最高の586人が来場してくれた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
青少年体験事業「御前崎クエスト」	100	5	5	5	5	継続
エネルギー教育の推進	100	4	4	5	5	継続
地域教材(社会科副読本)の改訂(R4改訂実施済・次回R8改訂予定)※	—	—	—	—	—	継続
マリンスポーツフェスタの開催	100	5	4	4	4	継続
平均	100	4.7	4.3	4.7	4.7	

※地域教材(社会科副読本)の改訂は、4年に1度行われており、令和4年度に実施している。したがって、本年度は改定を実施しておらず評価は行っていない。次回改訂は令和8年度に予定している。

3. 読書・読み聞かせの推進

「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に沿って読み聞かせや巡回貸出などの取組を行い、子どもの成長に合わせた読書活動の支援を行うことができた。来年度以降も園や学校、地域との連携を深め、読書環境の整備を進めていく。園・小中学校では、それぞれの発達や興味に合わせた読書環境の整備を行った。小中学校では4人の図書館司書が図書担当と協力して読書活動の推進を行った。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学校における読書活動の推進	100	5	5	5	5	継続
市立図書館と学校図書館との連携	100	5	5	5	5	継続
子どものための読書環境の整備	100	5	5	4	4	継続
平均	100	5	5	4.7	4.7	

5. 家庭教育支援の充実

あそび塾、だれでも食堂「もぐもぐ」、家庭教育学級に加え、おはな助産院とhappymomに委託し、家庭教育支援事業を展開した。新たな場を提供することで、新しい参加者もあった。今後もこども未来課など関係課と連携して取り組む。また、市内各園の保護者を対象に浜松学院大学今井昌彦教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について幼少期における家庭教育支援の充実を図った。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
家庭教育支援の推進(再)	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

6. 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組

学校に足の向かない児童生徒が、校内外の適応指導教室での生活で、自主的に学習に取り組んだり、対人関係を築いたりすることができている。

また、いじめ問題対策連絡協議会では、各校のいじめの実情や対応について情報共有することを通して、関係機関との連携を強化した。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
各校での指導	100	5	5	5	5	継続
適応指導教室「サンルーム」	100	5	5	5	5	継続
いじめ問題対策連絡協議会	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

7. 探究的な学び・協働的な学びの深化

スクラムゼミナールでは、上智大学奈須教授を招聘し、市内すべての小中学校で研修を行い、よりよい授業を目指す中で、現状の授業を見直し、個別最適な学びへと授業観をシフトする機会となった。

また、授業改善推進委員会やICT推進委員会では、市授業改善テーマの実現に向け、ICTの効果的な活用を含めた研修を進めた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市独自の学力調査	100	5	5	5	5	継続
スクラムゼミナール	100	5	5	5	5	継続
教職員対象各研修会	100	5	5	5	5	継続
外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置	100	5	5	5	5	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

8. ICT等の活用による新しい学びの展開

国のGIGAスクール構想3年目となり、端末の活用やクラウドを活用した学びが充実してきた。各校へのICT支援員の配置や授業支援ソフトウェアの活用により、学びの幅も大きく広がっている。活用にあたり、インターネットリテラシーや情報モラルを身につけることが、これまで以上に重要である。浜松学院大学今井昌彦教授を招聘して市内各園で講演会を行ったり、ネットパトロールを依頼している業者による講演会を各園・各校で行ったりすることで、児童生徒および家庭での情報モラル等の意識が高まった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学校のICT環境の向上	100	5	5	4	4	継続
デジタル教材の活用	100	5	5	5	5	継続
情報モラル学習の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	4.5	4.8	

9. 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり

全国体力運動能力等調査を実施した。市内の子どもたちの運動能力・運動習慣を客観的に分析する良い機会となった。本年度の全国平均値と比較し、小学生は同等の結果となった。中学生はやや低い結果となった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用をもとにした各校での指導	100	5	5	5	5	継続
部活動の活発化	100	5	5	5	5	継続
健康に関する意識の向上	100	5	5	5	5	継続
食育指導の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

10. 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実

個別に支援を要する子どもが年々増加傾向にあり、対応が複雑化してきている中、療育指導教室や園訪問等を通じて、一人一人に応じた適切な支援を行っている。

また、就学支援委員会では、特別な支援を必要とする子どもに対し、進路を見据えて適切な学びの場はどこかを審議し、丁寧な就学支援を進めた。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
就学支援委員会	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

11. 部活動の地域移行の検討

国の提案する中学校部活動の地域移行については、少子化が進む本市にとっても、重要課題である。国の求める令和5年度から令和7年度の改革推進期間内に、本市の方向性を決定すべく、検討会による方針作成を進めている。

また、近隣市と定期的に協議会を実施したり、関係機関との連携強化を進めた。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
部活動検討委員会	100	5	3	5	5	継続
平均	100	5	3	5	5	

※部活動地域移行は、現在まだ検討段階のため、本年度は、効果性についてはどちらともいえないという意味で、点検と評価を行った。

12. 学校の再編についての検討

市学校再編計画案について慎重に検討し、どのような方法で市民に提示していくか、その方法について考え、丁寧な説明をしながら進めていきたい。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
学校再編検討委員会	100	5	4	5	5	継続
平均	100	5	4	5	5	

13. ライフステージごとの学びの提供

ライフステージごとの学びの姿と場を示す「学びの航海図」を作成し、生涯学習ガイドブックも活用して市民が学び続けることができる仕組みづくりができた。講座数も増え受講者も増加した。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実	100	5	5	5	4	継続
「学びの循環」の仕組みづくりの推進	100	5	5	4	4	継続
平均	100	5	5	4.5	4	

15. 新型コロナウイルス感染症への対応

学校においては、新しい生活様式を日常化し、感染予防の徹底に努めた。感染者が出た場合は、迅速かつ適切な対応を行い、感染拡大防止に努めた。社会教育事業においては、感染症対策に係る注意喚起を図るとともに、状況に応じ日程変更など感染拡大防止に努めた。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
感染拡大防止への日常的な取組	100	5	5	5	5	継続
感染者への偏見・差別の防止PR	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

16. 教職員の働き方改革の推進

共同学校事務室と連携し、業務を一本化または精選することで、教職員の負担軽減につながっている。

また、業務改善『夢』コーディネーターを各校に配置し(県教委事業)、県内小中学校の取り組みを共有し、自校の働き方改革に反映している。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
県教委「学校の働き方改革推進プロジェクト」との連携	90	4	4	4	4	継続
各園・学校への調査	100	5	4	5	5	継続
各園・学校での取組への支援	100	5	4	4	4	継続
平均	96.7	4.7	4	4.3	4.3	

IV 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検及び評価

重点取組の点検・評価した施策についての具体的な事業を自己点検評価シートにまとめました。

本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い " 4・・・高い " 3・・・どちらともいえない " 2・・・低い " 1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
総合教育会議・移動教育委員会の実施 (教育総務課)	—	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	総合教育会議を1回開催した。第1回は、令和5年度全国学力学習状況調査、標準学力調査の結果について、結果を分析・考察した報告、前年調査との比較による課題等を共有しながら、組合管理者の御前崎市長が教育に抱く考えを確認するとともに、市長と教育委員との意見交換ができた。移動教育委員会を1回開催した。部活動地域移行について、検討委員と教育委員が、現在の状況を確認し、今後の展望を検討した。	①継続 教育、文化の振興に関する重要施策について引き続き検討を重ねる必要があることから、総合教育会議は継続する。 また、各分野の現場の意見を聞く機会として移動教育委員会も継続して開催していく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
スクラム・スクール運営協議会の実施 (学校教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の課題として「早寝早起き朝ご飯」などの基本的な生活習慣やそのための「自己管理能力の育成」について現状と課題を共有した。また、学校スクラム・スクール運営協議会を各校で2～3回開催し、各校の現状と課題について、学校・家庭・地域が協議した。さらに、各園において浜松学院大学 今井昌彦教授の講演会を開催し、親子で「ゲーム障害・ネット依存」の問題について考える場を設けた。 本市の児童生徒の1日2時間以上メディアにかかわる割合は、全国平均より高い状況である。 「早起き」「朝ごはん」ができる児童生徒の割合は全国平均よりも高い状況である。	①継続 全国学力・学習状況調査や標準学力調査の質問紙調査結果において、ネットの長時間利用率が、全国平均に比べて小中学校ともに10ポイント程度多い状況が続いているため、市の一体的な取組として、スクラム・スクール運営協議会の活動を継続していくとともに、講演会へ市民の参加も働きかけていく。学校・保護者・地域が一体となって子供たちの健全な育成を目指すための手立てを講じていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向									
学校支援地域本部の実施〔地域学校協働本部〕(学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	園・学校の要望に応じて、登録ボランティアを派遣している。園・学校からは、継続してボランティア派遣の依頼があり、地域の貴重な人材を活用することができている。本年度は、建設業組合による環境整備や家庭科授業へのミシンボランティア、待機看護師の派遣、小学校のクラブ活動の講師、中学校技術科木材加工への支援などが行われた。2人の地域コーディネーターが主となり、204人35団体のボランティア登録と園・学校との橋渡しを行い、のべ1789人を派遣し、地域全体で学校教育を支援することができた。	①継続	園・小・中からのニーズは多岐に渡り、欠かすことのできない組織となっている。地域の人材を活用することで開かれた学校運営にもつながっている。今後も各園・各校のニーズに応えられるように、新たなボランティアを開拓し、学校支援地域本部を継続していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
防災教育の推進(学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	各園・各校の防災対策マニュアルを、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域についての対策が記載されているか、または策定されているか確認し、見直しを図るよう指導した。防災教育については県で推進しているジュニア防災士の資格取得を推奨し、防災意識を高めるきっかけ作りとした。園と小による異校種間の引き渡し訓練を行った。	①継続	これまでのように、地域防災訓練への参加を各校で呼びかけ、児童生徒が参加できるようにする。ジュニア防災士などの県の事業も活用しながら、授業や学級活動などで防災についての内容を取り入れ、地区で活躍できる小中学生の育成を図る。防災教育推進についての連絡会議等の実施を進め地域とも連携を図っていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
キャリア教育の充実(学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	CS(コミュニティスクール)ディレクターによって平成30年度に両中学校のキャリア教育の体制が整った。職業講座を実施し、地元の様々な職業人から仕事内容ややりがいについて話を聞き、生徒自身の将来の夢や人生について考える機会を設定した。働く人の思いや願いに触れ、望ましい職業観の育成に繋がった。また職業体験学習も実施し、活動を通し、社会人として必要な心構えや資質について学ぶとともに、自分の今後の目標について考える機会となった。	①継続	職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験や講座の内容を工夫し、職業観や生き方について考える場を設けていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

5-1-2 人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向		
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	3	100%	事業の 妥当性	5	<p>本年度も継続配置で市立図書館職員1人が学校図書館司書として勤務した。合計4人の司書が各小中学校で図書担当職員と協力して読書活動を推進した。年2回の学校図書館連絡会の開催では、常葉大学鈴木守教授を招き、「1人1台端末化における学校図書館の活用と役割」についての講話を聞いたり、全国公共図書館研究会講話をオンライン視聴したりした。各校の取組について情報交換し、読書活動の活性化に役立てることができた。</p>	①継続	<p>学校図書館連絡会での講話内容をニーズに合わせて依頼していく。 本年度に引き続き、クロムブックのクラスルームを活用し読書推進に関する情報をいつでも共有できるようにしていく。</p>
		効果性	5				
		効率性 (コスト)	5				
		効率性 (人員)	5				
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	3	100%	事業の 妥当性	5	<p>市立図書館職員と各小中学校の図書担当が連絡を取り合いながら、工夫した取組を行うことができた。例えば巡回貸出やテーマ貸出、市立図書館企画イベントの呼びかけなど子どもたちが本と触れ合う機会を意識して活動できた。市立図書館への来館を促すイベントの案内を市のLINEでも配信し、図書館に足を運ぶ機会を作ることができた。学校図書館司書として市立図書館職員が配置されることで豊かな読書活動を行うことができた。</p>	①継続	<p>「子どもたちが本と親しむまち御前崎」を目指し、学校図書館連絡会や各学校との話し合いの場を通して、引き続き市立図書館と学校図書館相互の連携を図り、読書活動を推進していく。</p>
		効果性	5				
		効率性 (コスト)	5				
		効率性 (人員)	5				
青少年体験事業「御前崎クエスト」の実施 (社会教育課)	2	100%	事業の 妥当性	5	<p>自ら市内地域資源について学び、企画をつくっていくグローバルプログラムが新設され、一貫した御前崎クエストを通じた学びのサイクルが構築できている。キッズ29名、ジュニア46名、グローバル12名、ユース4名、ファミリー7家族23名 合計114名が活動を実施した。 異学年集団による自然体験・地域資源を活かした活動を通じ、地域愛の醸成ができた。</p>	①継続	<p>今後も地域資源を活かした事業による人材育成を継続する。 幅広い年代の方々を受け入れる体制づくりを検討するとともに、更なる「御前崎クエスト」への周知や関心の促進を図る。 事業運営を再考し、長期にわたって事業に携わる人材育成に努める。</p>
		効果性	5				
		効率性 (コスト)	5				
		効率性 (人員)	5				

※グローバル:グローバル(地球規模)とローカル(地域規模)を組み合わせた造語。地球規模の広い視野を持ちながら、地域に根差した視点で行動する考え方。御前崎クエストでのグローバルの活動は、中高生のグループ。

情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8	100%	事業の 妥当性	5	<p>浜松学院大学 今井昌彦教授を招聘して、「メディアとの安全な付き合い方」について保護者に対する講演を、市内各園で行った。また、ネットパトロール業務を委託しているNPO法人e-lunchによる講演を全校で行った。各園・各校の指導によって、メディアと安全に付き合っ生活する方法について、家庭で考えるきっかけ作りができています。</p>	①継続	<p>スクラム・スクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を今後も実行していく。児童生徒、保護者に実施したネット利用状況アンケートをもとに、児童生徒・保護者それぞれに対する支援を進めるため、事業を継続していく。</p>
		効果性	5				
		効率性 (コスト)	5				
		効率性 (人員)	5				

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向	
家庭教育支援の推進 (学校教育課)	1・5	100%	事業の妥当性	5	<p>御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の問題として「早寝・早起き・朝ごはん」の現状と課題を園・学校・家庭・地域の代表と共有した。メディアの長時間利用が課題であることから、自己管理能力の育成について協議した。また、市内各園の保護者を対象に浜松学院大学 今井昌彦教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について、保護者と現状と課題を共有し、家庭教育支援の充実を図った。</p>	<p>①継続</p> <p>標準学力調査の質問紙調査から、本市の子どもたちはネットを長時間利用する割合が全国平均より高い状態が続いている。今後も家庭教育支援を推進し、子どもたちの生活習慣の課題を解決する必要があるため、事業を継続していく。</p>
		効果性	5			
		効率性(コスト)	5			
		効率性(人員)	5			
声かけ運動の推進 (社会教育課) ※静岡県事業	-	100%	事業の妥当性	5	<p>県が実施している「地域の青少年声かけ運動」に協働し、参加者を募っている。園・学校・市職員・地区役員等の新規賛同者を広める活動をした結果、本年度新たに70人の新規参加者を迎え、累計登録者は5,442人となった。また、活動を研修会や会議で紹介し、積極的な声かけを呼びかけた。青少年を地域で育てる意識を醸成できた。</p>	<p>①継続</p> <p>県の指標が新規参加者数から研修会等での広報・周知となった。本市としては広く周知活動をするともに参加者の募集も続けていく。</p>
		効果性	4			
		効率性(コスト)	5			
		効率性(人員)	5			
青少年補導活動の実施 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	5	<p>夜間の出歩き等、直接青少年を見かける機会が減ってきているが、新型コロナの規制も無くなり、青少年の行動も広がると思われる。 青少年補導員の活動として、花火大会、冬季の県下一斉補導、はたちの集い、中学校卒業式での巡視を行った。少年の非行防止を啓発する活動ができた。</p>	<p>①継続</p> <p>市民・商店への非行抑制の意識向上と青少年への啓発のため今後も活動を継続する。また、補導活動の在り方について、今後検討していく。</p>
		効果性	3			
		効率性(コスト)	4			
		効率性(人員)	3			
市青少年健全育成会議事業の実施 (社会教育課)	1	100%	事業の妥当性	5	<p>青少年健全育成会議は地域、学校、行政の関係者で組織しており、会議では地域の青少年を取り巻く現状課題、重点取組を情報共有している。本年度は、学社連携していくため、スクラムスクール運営協議会を青少年健全育成会議委員が視察し、各地区の活動に反映するため、課題や情報共有を行った。また、市重点取組「早寝早起き朝ごはんなど基本的な生活習慣の啓発」「ゲーム障害やネット依存への対策」を明記したものを通知し、各種地区組織への周知が図られた。</p>	<p>①継続</p> <p>今後も学社連携を密にし、地区推進組織と情報共有を図り地域全体で青少年健全育成に取り組む。</p>
		効果性	5			
		効率性(コスト)	4			
		効率性(人員)	4			

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
「スクラム御前崎の集い」の開催 (社会教育課・学校教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="552 226 655 309">事業の 妥当性</td> <td data-bbox="655 226 724 309">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="552 309 655 392">効果性</td> <td data-bbox="655 309 724 392">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="552 392 655 474">効率性 (コスト)</td> <td data-bbox="655 392 724 474">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="552 474 655 566">効率性 (人員)</td> <td data-bbox="655 474 724 566">4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	<p>令和3年度から、スクラム・スクール運営協議会と共催し、学校、家庭、地域、行政が連携して子どもを守り育てるための講演会を開催している。</p> <p>本年度は、「子ども達の考えを肌で感じる」ことを目指し、市内中学校の生徒と社会教育関係者、学校教育関係者とのワークショップを行い、中学生7名、高校生1名、大人17名、合計25名の参加があった。全体ファシリテーター及び講師には、静岡大学 阿部耕也教授をお招きした。参加者からのアンケートには「大変良かった」「異年齢間での対話は刺激になった」と好評であった。</p>	<p>①継続</p> <p>令和6年度は、静岡県と連携して、11月に子供・若者育成支援推進強調月間県大会を御前崎市で行う。市青少年健全育成会議とスクラム・スクール運営協議会の共通重点取組である「ゲーム障害・ネット依存防止」についての講演を行う。静岡県と連携することで、市内外にもアピールし、子どもを守り育てる活動を推進する。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	4												

5-2-1 生きていく力の基礎の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
【再掲】p.4 家庭教育支援の 推進 (学校教育課)													
巡回相談、教育 相談の実施 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>巡回相談では園や各校のニーズに応じて年2回ずつの効果的な相談ができた。</p> <p>教育相談は、案内の方法や申込方法をメール配信、電子申請にし、学校や保護者の負担を軽減できている。相談内容をできるだけ早く各園や学校に伝えることで情報の共有ができ、適切な支援につながった。</p>	<p>①継続</p> <p>本年度同様、来年度も園や学校が必要な時期に巡回相談ができるように希望調査を取って計画していく。</p> <p>教育相談については、メールでの案内配信や申込を電子申請で継続することで気軽に利用できるようにしていく。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												

5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
市独自の学力調査の分析と活用 (学校教育課)	7	100%	事業の 妥当性	5	①継続 子どもたちの現状や当市の教育の今を客観的に知る上では重要なものであり、授業改善や家庭支援につながる資料となっている。来年度も本年度同様に実施し、子どもたちの学力向上につなげていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課)	9	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学力と同時に子どもたちの体力の状況等についても分析・活用し、心身ともに健やかな成長の支援に繋げていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
スクラム研究会の実施 (学校教育課)	4	100%	事業の 妥当性	5	①継続 ”遊びこむ子”の育成のために、どんな体験をさせたいか、どの遊びだと誰がどのような活躍ができるかを明確にした保育を構成していく。また、園で大事にしていること、育てていることを引き続き公開保育や研究会を通し、小中学校へ積極的に発信し、共有していくことで「途切れない教育」を遂行させていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
スクラムセミナーの実施 (学校教育課)	7	100%	事業の 妥当性	5	①継続 個別最適な学びは、学力の向上だけでなく、個に応じた生徒指導にもつながる授業観であり、今後も魅力ある学校づくりをする上で重要な視点となる。来年度も訪問による実施を進め、さらに各校の授業改善を進めていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
教職員対象各研修会の実施 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。授業改善推進委員会では、御前崎市授業改善テーマの実現に向け、子ども主体の授業づくりにむけて具体的な実践をイメージした協議ができた。ICT推進委員会では、ICT機器を利用するだけでなく、効果的な活用について研修を進めた。3年目教員は、学力向上コンサルタントの指導のもと、教育実践を研究論文にまとめ、教育団体の教育研究奨励賞に応募、表彰され若手教職員の自信や意欲向上につながった。</p> <p>それぞれの研修は、各立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p>	①継続 教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させていく。各種研修会における目標を明確にし、達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有し、教職員の資質・能力の向上につながる実効性の高い研修を行う。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>ALT2名と英語活動指導員、英語専科教員を各1名ずつ小中学校に派遣し、小学校外国語活動・外国語の授業の充実を図った。年度途中の英語活動指導員の退職に伴い、教育の機会均等を保つためにALTをもう1名追加し対応した。ALTと英語活動指導員、英語専科教員がいることで、子どもたちが生の英語に触れ、楽しく学習できている。また、教職員が外国語の授業づくりについて研修を深め、ALTを効果的に活用している。</p>	①継続 英語専科配置がない学校に優先的にALTを配置していく。その際、ALT等の持ち時数に偏りがないように計画的な配置をしていく。また、英語専科教員担当の学校にも子どもたちが生の英語に触れる機会を作っていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
ICT支援員の配置 (学校教育課) (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>ICT支援員が全校配置となつてから5年目となる。本年度は、各小学校毎週1回(第一小のみ毎週2回)、中学校隔週1回の支援とし、授業をはじめ、1人1台端末の活用を着実に支援した。中学校では、授業だけでなく、校務のDX化に向けた支援も進めることができた。学校教育の情報化を進めるうえで、現場の先生方からは高く評価されている。</p>	①継続 1人1台端末の活用に向けて、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図っていく必要がある。専門家であるICT支援員は学校にとって今後も必須であるため、引き続き配置を実施していく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												

※DX: デジタルトランスフォーメーション (ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること/総務省サイトより)

【再掲】 情報モラル学習 の推進 (学校教育課)					
-----------------------------------	--	--	--	--	--

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向		
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	2	100%	事業の妥当性	4	<p>各小中学校で、理科や社会科の授業等を行う際に、各発電のしくみや社会とエネルギーの関係などについて、中部電力株式会社職員をゲストティーチャーに迎え出前講座を実施した。また、小学生が、浜岡原子力発電所を見学し、原子力発電のしくみや安全対策の様子を中部電力職員から説明を受けた。エネルギー教育研修会として、愛知教育大学土屋武志教授を招聘し、地域の材を活用した授業の可能性について研修を実施した。</p> <p>事業を通して、教科における身に付けたい資質能力の向上につながった。</p>	①継続	各教科の目標に沿って、エネルギー(発電や環境)について自ら考え判断する力を身につけるためにも継続していく。
効果性	4	効率性(コスト)	5				
効率性(人員)	5						
【再掲】p.3 学校における読書活動の推進 (学校教育課)							
【再掲】p.3 市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)							
学習支援員等の配置 (学校教育課)	10	100%	事業の妥当性	5	<p>学校の実態に合わせ、各校の支援員数を調整した。入学当初の1年生や保健室への来室児童生徒へのきめ細かな対応が可能となり、落ち着いた学習環境づくりにつながっている。</p> <p>各専門指導員は、外国人対応等それぞれの専門性を生かし、職員や児童生徒の指導・支援、ケース会議や各専門機関との連携等に力を発揮し、安定した学校運営を支えている。</p>	①継続	年々、通常学級における特別支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、学習支援員の必要性はますます高まっている。各校の要望を聞き、効果的な配置にしている。
効果性	5	効率性(コスト)	5				
効率性(人員)	5						
いじめ問題対策連絡協議会の実施 (学校教育課)	6	100%	事業の妥当性	5	<p>いじめ防止対策推進法の規定に基づき、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例を制定し、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会が設置されている。関係機関(警察・児童相談所・福祉課・こども未来課等)・小中学校生徒指導担当・SC・SSWが委員を務め、いじめの防止等に必要事項を協議したり、連携調整を図ったりすることを目的としている。各校のいじめの実情や対応について情報共有することを通し、関係機関の連携を強化した。協議会ではグループ演習も行い、いじめの事例をもとに各関係機関の視点で考えらえる対応について協議をした。</p>	①継続	いじめの積極的な認知と丁寧な指導を進めていくために、法に基づく環境整備に努める。また、関係機関の担当者が互いに顔の見える関係を構築するために実施する。
効果性	5	効率性(コスト)	5				
効率性(人員)	5						

※SC:スクールカウンセラー・SSW:スクールソーシャルワーカー

【再掲】p.6 巡回相談、教育相談の実施 (学校教育課)							
------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向									
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議の実施 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>就学支援委員会では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、進路を見据えて適切な学びの場はどこか審議することができた。新学齢児の就学支援について、園担当指導主事、園、学校が連携を図り見直しをもって丁寧な就学支援を進めることができた。</p> <p>専門家チーム会議は年2回行い、個の実態を把握した上で、より良い支援の方法について話し合うことができた。</p>	①継続	<p>年度初めのコーディネーター研で1年間の流れや資料の作成の仕方、適切な学びの場の判断基準など、就学支援に関わる内容について毎年丁寧に周知を図っていく。また、専門家チーム会議を活用し、通常学級の中での支援や通級指導についてアドバイスいただき指導を充実していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
適応指導教室「サンルーム」の設置 (学校教育課)	6	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>11月末時点で、13名の児童生徒(内、御中5名)が学んでいる。学校へ足が向かない生徒も適応指導教室での生活で、自主的に学習に取り組んだり、対人関係を築いたりすることができている。スタッフと学校が児童生徒に関する情報を共有し、個に応じた支援を工夫している。</p>	①継続	<p>学校に通うことが難しい児童生徒にとっての居場所と、学びの場を提供する。学校との連携を密にし、通級児童生徒の子に応じた支援を行っていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
学校のICT環境の向上 (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>小学校1・2年生の学習者用端末をChromebookに更新し、1人1台端末下の共同学習の均一化が進み、小学校低学年もクラウド利用が日常化した。また、AIDリルや授業支援機能を活用できるソフトウェアを導入し、個別最適な学びの方向に進んでいる。</p>	①継続	<p>令和6年度のデジタル教科書の導入に向け、学習環境の整備をする必要がある。ICT機器利用実績及び学校ニーズを踏まえ、1人1台端末下でのICT環境の整備を更に推進していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
GIGAスクールの推進 (教育総務課) ※R4年度まで学校教育課と2課で担当	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>1人1台端末を活用した学びを充実させるために、クラウドの活用や授業支援ソフトウェアの活用が進んでいる。御前崎市の授業改善テーマである「子ども自身が学びを実感する授業」づくりが進む中で、子ども自身が活用方法を選択するなど、学び方の幅が大きく広がっている。また、御前崎市の授業改善やICT活用については、他市町からも視察を受け入れるようになった。令和5年度は、主に浜岡東小学校、白羽小学校や浜岡中学校などで合計10件程度の視察があった。</p>	①継続	<p>これからの時代に必要な資質・能力を育成するために、GIGAスクール構想の推進は必須となる。クラウドを活用した学びの充実や個別最適化された学びをより充実させていくことで子どもの学力向上に取り組んでいく。また、インタラクティブの学びの充実を進めていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

※インタラクティブの学び:クラウドを活用した双方向の学び

5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
安全安心な教育環境の向上 (教育総務課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 クラスの増減に応じた整備や、社会情勢やICT化の対応を行い、適正な整備、維持管理に努める。併せて施設設備の老朽化に伴う必要な修繕を実施する。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
特別教室の多機能化 (教育総務課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 今後も学校要望や重要度に応じて、引き続き整備を行っていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
学校再編計画の検討 (教育総務課)	12	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学校再編計画案について慎重に検討し、市民の方々などへ丁寧な説明をしながら計画を策定していく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
【再掲】p.11 学校のICT環境の向上 (教育総務課)					
ICT関連周辺機器の安定稼働 (教育総務課)	8	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学校ニーズやトレンドをとらえて、必要な周辺機器の整備をコスト意識を持ちながら継続したい。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	5	

5-3-1 笑顔でつながる学びの輪の醸成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実 (社会教育課)	13	100%	事業の 妥当性	5	<p>①継続</p> <p>対話による学びや気づきが得られるよう、「学びの航海図」の活用を進めていく。また「学びのパスポート」で、学びの記録を見える化し、モチベーションアップに繋げる。また、生涯学習講座の充実を目指し、生涯学習ガイドブックのダイジェスト版作成により、市民に分かりやすい情報提供を行う。</p>
効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	
「学びの循環」の仕組みづくりの推進 (社会教育課)	13	100%	事業の 妥当性	5	<p>①継続</p> <p>学びたい人が継続して学ぶことができる環境を整えるために、学びの循環の仕組みづくりの推進をしていく。</p>
効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	

5-3-3 心身ともに健康な市民を目指したスポーツの振興

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
マリンスポーツフェスタの開催 (社会教育課)	2	100%	事業の 妥当性	5	①継続 駐車場は県の土地を借用でき、安全に来場者を誘導できた。しかし、来場者の半数近くが市外の方であるため、市内の方の参加率が課題である。海での事業なので事故もなく安全安心な運営となるよう見直しを行いながら事業を継続していく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
数年ぶりに新型コロナウイルスによる制限が無いなか、牧之原市と共催で事業を実施することができた。 ー 昨年は市内在住者のみ、昨年は手指消毒や機材消毒の徹底など制限を設けていたが、制限を解除したことにより過去最高の586人もの来場者があった。来場者の49.5%が御前崎市・牧之原市以外となっており、市民だけでなく市外の方に対しても、御前崎の海の良さを再認識してもらおうとともに、地域の特性を生かした海洋スポーツを楽しむ機会を提供することができた。					

V 令和5年度教育委員会の活動

(1) 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員の名簿

(令和6年3月現在)

役職名	氏名	任期
教育長	吉村 紳治郎	令和5年4月1日～令和6年3月31日
委員 (職務代理者)	増田 克之	令和2年1月17日～令和10年1月16日 (教育長不在期間：令和5年1月1日～令和5年3月31日)
委員	松林 義樹	令和2年7月11日～令和9年1月16日
委員	野口 智美	令和3年7月5日～令和5年12月31日 (退任)
委員	松下 充利	令和4年1月17日～令和8年1月16日
委員	馬 渕 香 澄	令和6年1月1日～令和7年1月16日 (新任)

(2) 協議事項

教育委員会が管理・執行する事務

項目	件数	点 検
(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	1	○令和6年度重点取組(案)について報告した。
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	4	○御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校施設使用規則の一部を改正する規則の制定 ○御前崎市牧之原市学校組合立中学校管理規則の一部を改正する規則の制定 ○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について審議した。
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和5年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	1	○令和6年度当初予算案(3月)について具申した。
(5) 第26条の規定による点検及び評価に関すること。	1	○令和5年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(6) 教科用図書の採択に関すること。	0	
(7) その他	4	○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会教育長職務代理者の指名 ○令和5年度準要保護児童生徒の認定 ○令和6年度準要保護児童生徒の認定について審議した。

総合評価

常葉大学 堀井啓幸

1 重点取組の執行度ほぼ 100%

2023 年度の重点取組の執行度は、ほぼ 100%の執行度となった。昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後、ほぼすべての項目で「執行度 100%」となったことは、対面活動の制約がなくなりつつあることとも関わるが、コロナ禍でも多様、多量な教育事務を着実に管理・執行されてきた教育委員会活動の成果として高く評価したい。

それぞれの取組における事業内容が若干異なるので単純な比較は難しいものの、各取組の執行度の平均値は以下の表のように変化している。

表 重点取組の執行度 (%)

重点取組 (継続事業)	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1 生活習慣 (学習習慣) の定着	87.5	87.5	97.5
2 市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成	96.7	100	100
3 読書・読み聞かせの推進	95.0	100	100
4 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続	100	100	100
5 家庭教育支援の充実	90	90	100
*基礎学力の向上と得意分野の伸長 (2021 年度までの取組を 2022 年度から以下の 3 つの取組に分けている)	100	-	-
6 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組	75	90	100
7 探究的な学び・協働的な学びの深化 (2022 年度新設)	-	100	100
8 ICT 等の活用による新しい学びの展開 (2021 年度は「一人一台端末の効果的な活用」)	96.7	100	100
9 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり (2021 年度は「学校教育・社会教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり」)	100	100	100
10 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実 (2021 年度は「不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応」)	100	100	100
11 部活動の地域移行の検討	-	-	100
12 (園・) 学校の再編についての検討	100	100	100
13 ライフステージごとの学びの提供	88.0	100	100
14 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興	81.3	89.4	93
15 新型コロナウイルス感染拡大への対応	100	100	100
16 教職員の働き方改革の推進	100	100	96.7

今日、教育行政において、証拠に基づく政策立案 (Evidence-Based Policy-Making) が求められており、何をもって執行度〇%といえるのか、目標との関係でそのエビデンスが示されていない項目があることは気になるが、御前崎市は「スクラム御前崎」というネットワーク型行政の機軸があり、御前崎市の教育行政や学校教育が日常的に「スクラム」を組んで対応することで共通理解がしやすい政策立案の土壌を作っていることがこうした成果を上げていると推察される。教育事業を執行する当事者としての教育行政職員が、非常事態でも顔を合わせて臨機応変に対応を話し合えるという、おそらく御前崎市の教育風土に由来するであろう「スクラム」の姿勢が「執行度 100%」の活動を作り上げている。

2 御前崎市の教育行政への提言-執行度 100%の重点取組のさらなるレベルアップ-

「執行度 100%」の御前崎市の教育行政のこれからについて、最近の国の教育政策が重視する、「子どもの参加」、「地域のつながり」の2つの視点から提言したい。これら2つの視点は、御前崎市でこれまでも重視されてきた視点ではあるが、今日、もう一段レベルアップした施策が求められている。

① 「子どもの参加」と「スクラム御前崎」

こども家庭庁の創設とともに、2023年4月に施行された「こども基本法」では、国及び地方公共団体がこども施策を策定・実施・評価する際には「こどもの意見」を反映させるための措置を講じなければならない旨が規定されている。

2023年度は、「スクラム御前崎」の集いで子どもたちを交えたワークショップが初めて開催されているが、子どもや保護者、地域住民がそこで集うという執行を超えて、子どもや保護者、地域住民から出てきた意見を次年度にどのように生かしていったらいいのかをきちんと評価し、施策に反映させることがこれまで以上に求められる。

2022年12月に改訂された文部科学省「生徒指導提要」では、「生徒指導に関する法制度等の運用体制」において、「児童生徒の参画」について記述されており、校則の改定や部活動の地域移行などで、児童生徒の参画などを前提にした学社協働の施策がどこまで実践できるかも問われている。これまで以上に「子どもの参加」を積極的に図ることで、学校の教育実践のみならず地域の生涯学習がさらに活性化されると同時に、御前崎市の「スクラム」の良さを生かした地域全体の発展や優れた人材の育成につながることを期待したい。

② 「地域のつながり」と地域教育経営

2023年3月の中央教育審議会答申「次期教育振興基本計画について」では、2023年度から始まる次期教育振興基本計画の統轄的な基本方針・コンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、「日本社会に根差したウェルビーイング」の重要な要素として「学校や地域でのつながり」の重要性が改めて指摘されている。^{*1}

「スクラム御前崎」を前面に出している御前崎市では地域と密接に結びついた教育行政施策に大きな特徴を持っており、静岡県内でもその取り組みが注目されてきたが、全国各地でこうした取り組みが当たり前になる中で、今、目の前にある地域、そこで生きる子どもや保護者、地域住民をどのように把握して、対応し、子どもも含めた地域住民の幸せづくりを支援していくか。まさに「スクラム御前崎」の真価が問われている。

御前崎市の「郷土を愛し、未来を創る人づくり」という目標の下で、「学校や家庭、地域のつながり」をさらに太くするためには、行政主導ではない学習者自身の主体性や自己主体性に立脚した地域教育経営を前提とした自律的な学校経営の明確なビジョンや体制づくりが不可欠になる。そのためには、個々の学校経営をこれまで以上に積極的に支援する教育行政の在り方が課題といえる。それぞれの学校園の特性を踏まえるという現在の執行状況を超えて、御前崎市全体を俯瞰する地域教育経営の在り方が問われている。

御前崎市教育委員会では、2022年度から自己点検・評価に関わる課長や補佐の連絡会が開催されることになった。評価自己点検・評価が年度末に部署ごとに行われてきたことを超えて、教育行政が縦割りではなく、当事者意識をもって行われることで、就学前の保育から小中学校、高等学校に至るまでの縦の連携（接続）、家庭、学校、社会を結ぶ横の連携が当たり前になってきた「スクラム御前崎」をさらに太く厚く支援してほしいと思う。

*¹ この答申では、「ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、初期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。」と定義している。